
南陽市総合計画基本構想（案）

南陽市

令和 2 年 2 月

第1章 総論

第1節 はじめに

1. 計画策定の趣旨

総合計画は、南陽市のまちづくりの基本となる最上位の計画であり、まちづくりの方針やその実現のために必要となる施策の方向性を明らかにするものです。

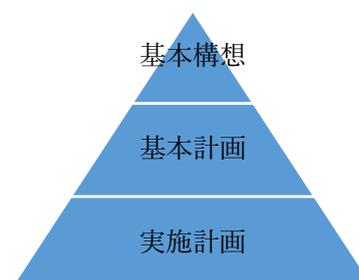
南陽市では、平成23年（2011年）に第5次南陽市総合計画を策定し、「教育」、「産業」、「健康」のまちづくりにより新たな活力ある方向性をもって市政運営を進めてきました。

この間、人口減少、少子高齢化の加速化、社会経済のグローバル化の進展、東日本大震災、豪雨災害などの大規模な自然災害の発生、市民ニーズの多様化など地域を取り巻く情勢は大きく変化しており、自治体経営においても大きな変革が求められています。

このため、人口減少をはじめとする社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、効果的、効率的な施策を組織横断的、住民参画により展開し、市民一人ひとりが安心して暮らすことができる社会を目指し、新たな総合計画を策定するものです。

2. 計画の構成

総合計画は、10年間のまちづくりの方針を示す「基本構想」と5年毎の行政計画を示す「基本計画」、3年間の具体的施策を示す「実施計画」により構成します。



3. 計画期間

計画期間は、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間とします。

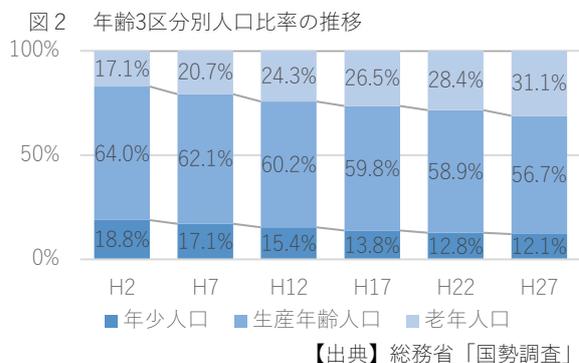
第2節 南陽市の現状と課題

1. 南陽市の現状

(1) 人口構造の変化

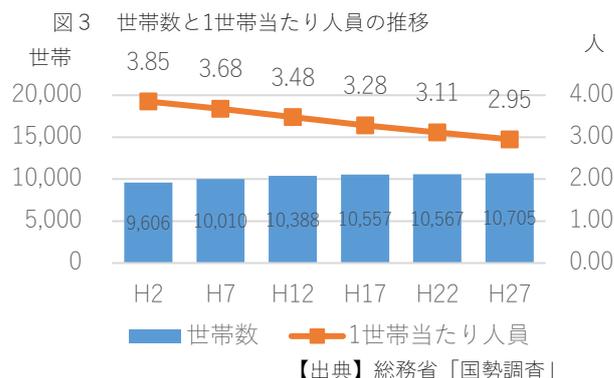
本市の総人口は、ここ30年間では減少傾向で推移しており、平成27年では32,285人となっています。年齢区分別では、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）はともに減少が続いていますが、老年人口（65歳以上）は増加しています。高齢化率は、平成27年で3割を超えており、少子高齢化と人口減少が進行しています。

(図1, 2)



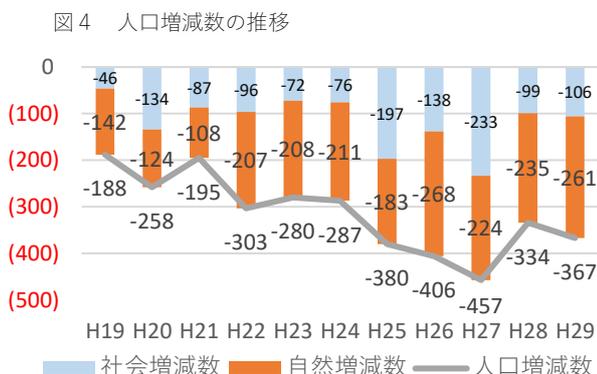
(2) 世帯の状況

世帯数は、増加傾向で推移していますが、1世帯当たり人員は平成27年で2.95人と減少傾向にあり核家族化が進んでいます。(図3)



(3) 人口動態

自然動態及び社会動態はともに減少傾向が続いており、近年人口増減数は年300人以上の減少で推移しています。(図4)

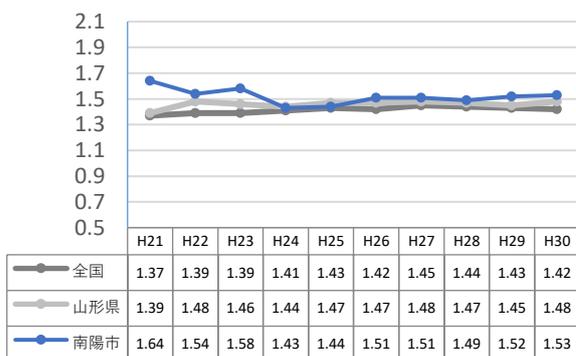


【出典】 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

合計特殊出生率は、平成30年が1.56で、1.4~1.6前後で推移していますが、全国、山形県と比較して割合が高い傾向にあります。(図5)

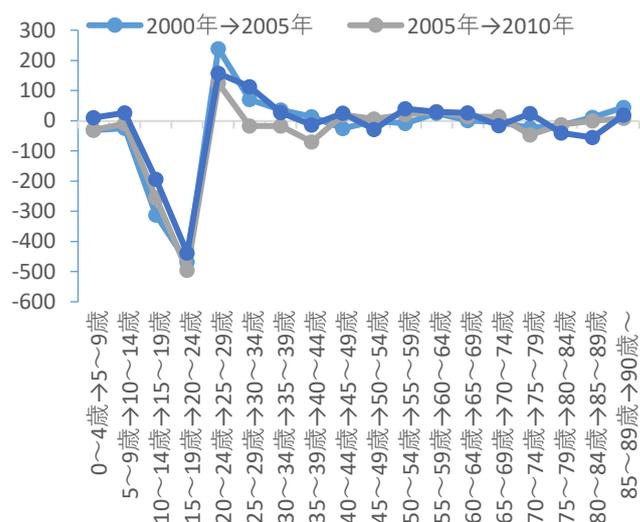
年齢階級別の純移動数では、10代後半から20代前半で転出超過となり、20代後半から30代前半にかけて転入超過となっており、就学、就労のために一時的に市外へ転出する傾向が強く表れています。(図6)

図5 合計特殊出生率の推移



【出典】 県健康福祉企画課、県子育て支援課、厚生労働省「人口動態統計」

図6 年齢階級別純移動数の時系列推移

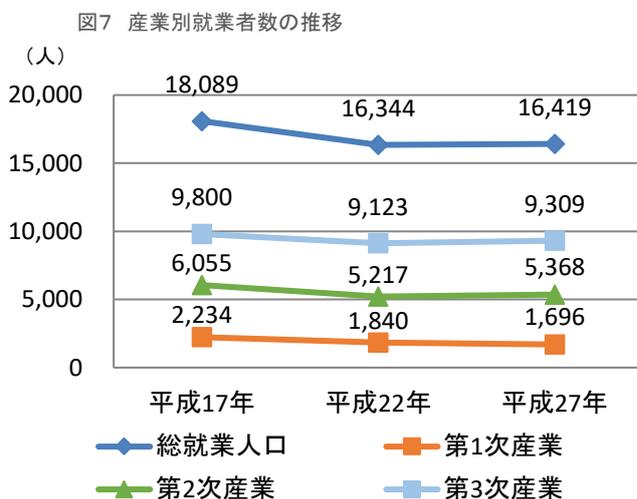


【出典】 総務省「国勢調査」

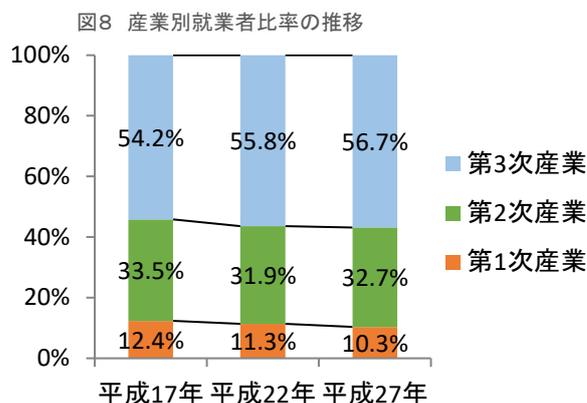
(4) 産業の状況

本市の住民における就業者数は、平成17年と比較して約9.2%減少しています。

産業別就業比率の推移を見ると、第3次産業の増加に対して、第1次産業、第2次産業の比率が低下しています。(図7、8)



【出典】総務省「国勢調査」



【出典】総務省「国勢調査」

(5) 市内総生産及び市民所得の推移

市内総生産は、平成28年度が約984億円となり、平成23年度以降増加傾向が続いています。市民所得は、平成28年度が約827億円、1人当たり市民所得は259万円となり、平成21年度以降増加傾向となっています。



【出典】山形県「市町村経済計算」

2. 市民意向調査等からみる市民意識

(1) 市民意識調査

①調査概要

市民のまちづくりに関する意向を広く把握し、本計画等に反映させることを目的に実施しました。

調査対象	18歳以上の市民 2,000人（無作為抽出）
調査時期	令和元年6月
回収数／配布数	801票／2,000票
回収率	40.1%

②行政施策の満足度と重要度

本市のまちづくりに関する施策66項目について、「満足度」と「重要度」を指標化し、散布図に表しました。下記の領域については、各施策の相対的な位置関係を示すために便宜上設定した分類です。

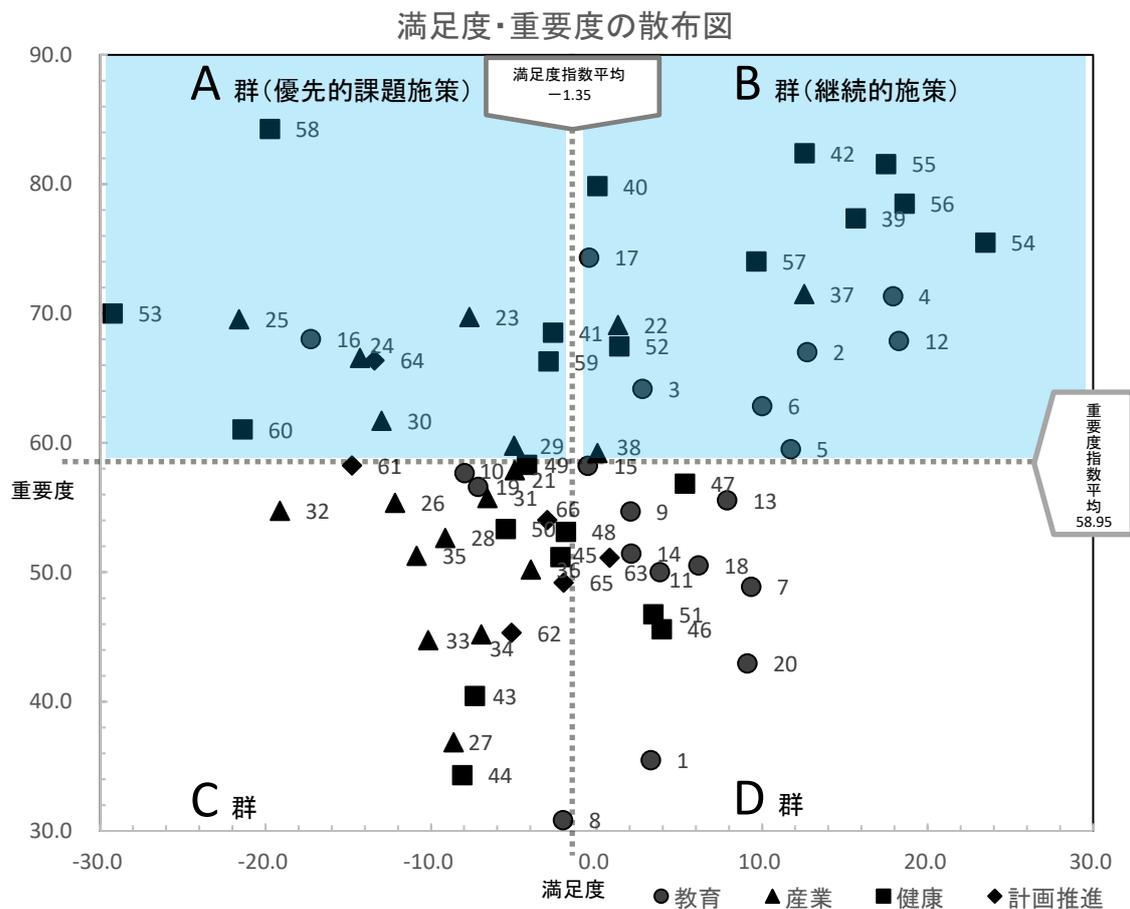


A群（優先的課題施策）には、満足度の低い順に「地域公共交通」、「雇用機会」、「住環境の整備」、「雨・雪に強い地域づくり」、「若者の交流」等が分類されており、今後それらの施策について重点的に改善していく必要があると考えられます。

また、B群（継続的施策）には、「上下水道整備」、「防災体制充実」、「食農・食育」、「教育環境整備」、「河川・砂防事業」等があり、安全・安心や都市基盤、教育に関する施策の満足度が高く今後も維持していくことが望ましいと考えられます。

C群及びD群に分類された施策については、各施策の優先順位を勘案しながら取組を進めていく必要があります。

③満足度と重要度の散布図



A 群 (優先的課題施策)

- 16 若者の交流推進
- ▲23 地域商品の情報発信による販路の拡大
- ▲24 農・商・工・観光の後継者の育成・支援
- ▲25 雇用機会の創出
- ▲29 温泉巡りを楽しめるまちづくり
- ▲30 商店街活性化の支援
- 41 子育てを応援する居住環境の充実
- 53 地域公共交通の確保
- 58 雨・雪に強い地域づくり
- 59 社会保障の的確な運用
- 60 安全・安心な住環境の整備
- ◆64 長期的な視点に立った財政運営

B 群 (継続的施策)

- 2 心豊かな児童・生徒の育成
- 3 創造性に富んだ人材育成
- 4 小・中学校等の教育環境の整備
- 5 啓発的体験活動の推進
- 6 「知・徳・体」教育の実践
- 12 食農・食育の充実
- 17 家庭教育の推進
- ▲22 南陽ブランドの構築
- ▲37 資源リサイクルの推進
- ▲38 自然環境の保全・育成
- 39 子育て支援サービスの充実
- 40 産み育てやすい環境づくりの推進
- 42 安心を担う保健・医療サービスの充実
- 52 道路網の整備
- 54 上下水道の整備促進
- 55 河川・砂防事業の促進
- 56 自然災害に備えた地域防災体制の充実
- 57 交通安全と犯罪防止の推進

C 群

- 8 競技スポーツの振興
- 10 地域PRの推進
- 19 男女共同参画によるまちづくりの推進
- ▲21 地域資源を活かした産業の活性化
- ▲26 地域観光資源のネットワーク化
- ▲27 体験・滞在型観光の促進
- ▲28 新たな視点による観光資源の活用
- ▲31 生産・販売体制の強化
- ▲32 最先端の技術移転の促進
- ▲33 都市間交流によるものづくり情報の相互発信
- ▲34 環境に配慮した産業団地計画の推進
- ▲35 既存企業の活性化支援
- ▲36 環境意識の高い地域づくり
- ▲43 温泉による健康保養基地
- ▲44 健康増進の場と情報の提供
- 45 ところからでの健康づくりの促進
- 48 世代間交流による高齢者の健康づくり
- 49 障がい者の社会参加の促進
- 50 自然と活力が調和した土地利用の推進
- ◆61 地域特性を活かした政策形成
- ◆62 行政情報化の推進
- ◆65 行政施策の決定プロセスの公開
- ◆66 市民参画に向けた広報広聴活動

D 群

- 1 多文化共生の視点に立った国際理解教育の推進
- 7 スポーツ環境の充実
- 9 生涯健康スポーツの推進
- 11 郷土愛を深める文化の継承発展
- 13 市民活動機会の充実
- 14 生涯学習による人づくり
- 15 まちづくり参画の推進
- 18 コミュニティの再生
- 20 地域文化の発信と文化交流の推進
- 46 公民館を拠点とした健康活動の支援
- 47 地域福祉ネットワークの形成
- 51 ふるさと景観の形成
- ◆63 広域行政による効率化の推進

(2) 中学生・高校生意識調査

①調査概要

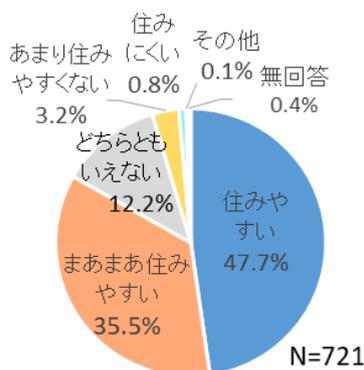
市内中学生及び高校生のまちづくりに関する意識を把握し、総合計画に反映させることを目的に実施しました。

調査対象	赤湯中学校・宮内中学校・沖郷中学校・県立南陽高等学校生徒
調査時期	令和元年 6 月
回収数	中学校 7 2 1 票、高校 3 8 4 票

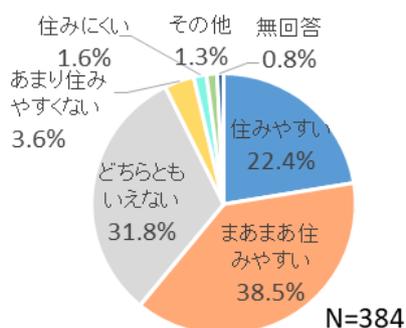
②住みやすさ

「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」を合わせて、中学生は 83.2%、高校生は 60.9%、一般市民は 68.3%が「住みやすい」と回答しています。

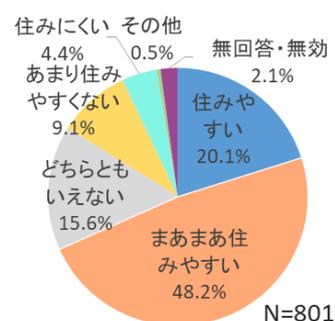
中学生



高校生



市民意向調査



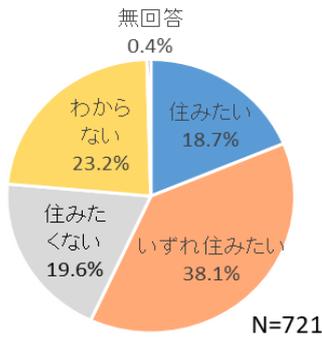
※グラフ中の N は有効回答数を表しています。以降のグラフも同様です。

③定住の意向

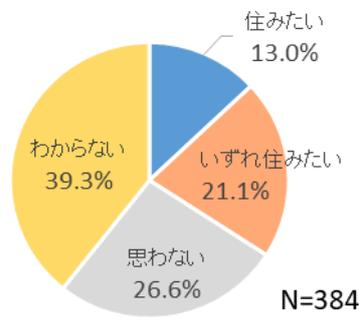
中学生は、「住みたい」「いずれ住みたい」を合わせて 56.8%、高校生は、「住みたい」「いずれ住みたい」を合わせて 34.1%、一般市民は、「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」「市内の別の場所に引っ越したい」を合わせて 69.8%の市民が、住み続けたいと考えています。高校生の住み続けたい割合が他の結果に比べ低いのは、市外在住の高校生の回答が半数程度含まれているためと考えられます。

しかしながら、高校生の卒業後の進路については、77.8%が進学、10.7%が就職を希望しています。そのうち、進学では約 6 割が山形県外への進路を希望し、就職では、約 5 割が置賜地域以外への就職を希望しており、就学、就職に関する意識が、10 代後半からの人口流出に影響を及ぼしていると考えられます。

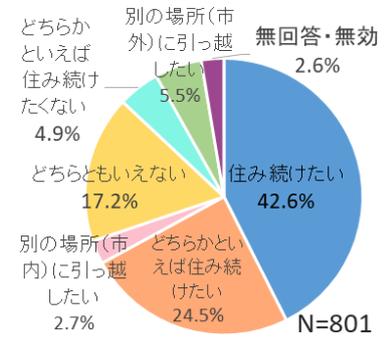
中学生



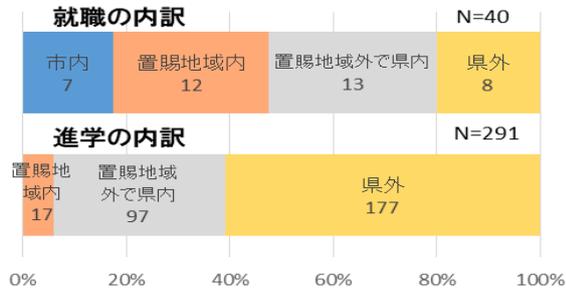
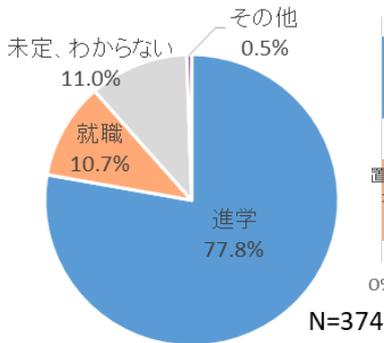
高校生



市民意向調査



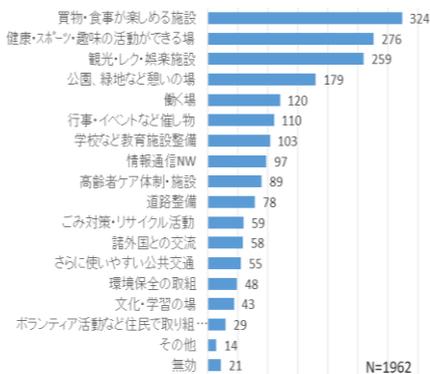
高校生の卒業後の進路



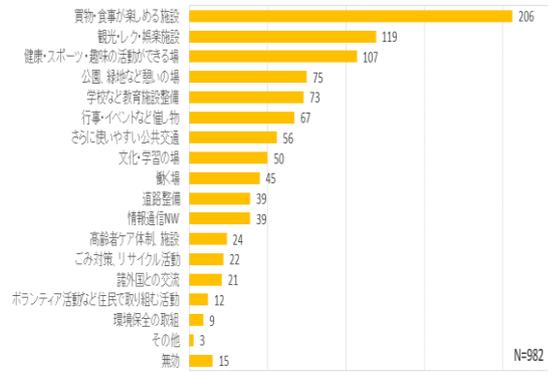
④南陽市で充実してほしいこと

中学生、高校生ともに「買い物や食事が楽しめる施設」や「健康・スポーツ・趣味の活動ができる場」、「観光・レクリエーション・遊び場」、「公園、緑地など身近な休める場」などを望む回答が多く見られました。

中学生



高校生



3. 市民参画

(1) 市民参画の概要

計画の策定に当たり、広く市民の皆様の声を計画に反映させる仕組みとして、学生や市民が参加するワークショップを開催しました。

市民ワークショップの運営には、研修を受けた30代の市職員が各テーブルの進行役（ファシリテーター）として参加し、意見の取りまとめを行いました。

中学生・高校生サマーアイデアキャンプ南陽版

開催期間	令和元年8月10日（土）～12日（月・祝）
メイン会場	シェルターなんようホール展示ギャラリー
参加者	高校生27名
属性別参加者状況	
【高校別】	南陽高校 20、米沢興譲館 1、米沢東 3、米沢商業 2、九里学園 1
【男女別】	男 13、女 14
【学年別】	一年生 5、二年生 7、三年生 15
【居住地別】	南陽市 8、米沢市 3、長井市 4、高畠町 7、川西町 1、飯豊町 1、白鷹町 1、小国町 2

市民とみらいワークショップ

開催期間	令和元年10月2日（水）～令和2年2月12日（水） 全4回
メイン会場	シェルターなんようホール小ホール
参加者	54名

職員研修会 ※市民とみらいワークショップに参加する職員への研修会

開催期間	令和元年7月2日（火）～令和2年2月28日（金） 全8回
会場	市役所会議室
参加者	30歳～40歳までの市職員

(2) 中学生・高校生サマーアイデアキャンプ南陽版

市内企業等への訪問取材とワークショップを通じ、学生の視点により南陽市の課題や魅力を捉え、南陽市の将来像を考える取組として実施しました。

講師は東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科学科長 岡崎エミ准教授、同学科 醍醐孝典准教授、合同会社 moyai 代表 小野寺真希氏。



①サマーアイデアキャンプ1日目 (8月10日)

「コミュニティデザイン、南陽市の概要、総合計画」に関するレクチャーと、フィールドワークとしてグループに分かれて市内各分野で働いている方への取材を行いました。



②サマーアイデアキャンプ2日目 (8月11日)

引き続きフィールドワークとまちづくりを実践している方へのインタビューを行いました。また、「ワーク」として、そこから得た「事実」「気づき」をもとに、南陽市の「魅力」「課題」を分析し、「魅力を活かしたアイデア」「課題を解決するアイデア」「アイデアが実現した未来」を考え10年後を描く「なんよう未来新聞」の作成を開始しました。



③サマーアイデアキャンプ3日目 (8月12日)

引き続き、「なんよう未来新聞」の作成を行いました。また、「発表会」として、チームごとに「なんよう未来新聞」発表しました。



(3) 市民とみらいワークショップ

① 第1回ワークショップ(10月2日)

8つのテーブルに分かれて、南陽市の魅力や課題について話し合いました。テーブルの進行役を市職員が務め、模造紙に付箋(意見)を出して集約しました。



② 第2回ワークショップ(10月30日)

第1回とは違うメンバー同士が8つのテーブルに分かれ、「南陽市の将来像」について話し合いました。テーブルの進行役を市職員が務め、10年後の南陽市の将来像を描きながらキャッチコピーをつくるというワークに取り組みました。



③ 第3回ワークショップ(11月27日)

前回までのワークショップでの意見を元に、事務局で設定したテーマのチームに分かれ「南陽市の未来に向けた取組み」を考えました。テーブルの進行役を市職員が務め、取組みのアイデア創出から具体的な企画案まで、すべてのチームがまとめ上げ発表を行いました。



④ 第4回ワークショップ(2月12日)



(4) ワークショップにより見えてきた課題

中学生・高校生サマーアイデアキャンプ南陽版、市民とみらいワークショップにより寄せられた意見を整理する中で見えてきた課題は以下の通りです。

- ・地域に魅力と課題が同じくらい数多く存在している。それらは表裏一体であり、どちらもまちづくりに生かせる要素は大きい。
- ・地域において、強みを生かして个性的な事業を展開している個人や企業、団体が存在している。
- ・将来のまちの姿について、人と人とのつながりや縁（えん）、コミュニティ、交流を大切にしたいまちづくりを望む声が多い。

参考) 第2回市民とみらいワークショップニュースレターより抜粋

Step2

どんな南陽市になってほしいかを、テーブル内で発表しよう! (紹介は一部抜粋)

魅力的な大人がたくさんいて、
住んでいて楽しいまち

どんな人でも安心して暮らせるまち

ふと思い立って
行きたくなるようなまち

特産物を生かした
オシャレなまち

みんなの笑顔が溢れるまち

近代的で健康寿命が長いまち

市民にとって魅力ある
学びに溢れているまち

文化の発信地になっているまち

ゆるーい繋がりが市全体にあるまち

世代を超えた交流が盛んなまち

子どもたちがワクワクを見つけられるまち

外国人とのコミュニティを
広げられるまち

Step3

南陽市の今後10年間で大切にしたいキーワードをピックアップしながらキャッチコピーにまとめよう! (内容は一部抜粋)

<p style="text-align: center;">A テーブル</p> <p style="text-align: center;">はじめはおはようさま ～つながりあふ未来へ～</p> <p><small>Comment</small> あいさつや交流により繋がりが生まれることが南陽市の明るい未来に繋がっていくという想いを込めました。</p> <p><small>Keyword</small> 多様性 / バリアフリー / 笑顔 / 誇り / 楽しさ / 発信 / 働く / 安心 / コミュニティ / 語が変える / 交流 / 繋がり</p>	<p style="text-align: center;">B テーブル</p> <p style="text-align: center;">つながるYO 南YO</p> <p><small>Comment</small> 交流などのキーワードが多く共有され、南陽の「陽」の字に明るさや楽しさの意味を込めてまとめました。</p> <p><small>Keyword</small> 笑顔 / 子ども / ポジティブ / 魅力の発信 / 賑わい / 連携 / 活気 / おかわり / たのしい / 交流 / 楽しさ / 開放的</p>	<p style="text-align: center;">C テーブル</p> <p style="text-align: center;">円より縁</p> <p><small>Comment</small> 人の縁を大切に、新しい繋がりが活動を生み出すことが南陽らしい魅力になるのではないかと考えました。</p> <p><small>Keyword</small> つながり / 明るさ / 思い出 / オンライン / 可能性 / 特産物 / 学び / 生きる / ボランティア / 風土 / 将来性 / 仕事</p>	<p style="text-align: center;">D テーブル</p> <p style="text-align: center;">熟成×活気=Nanyo</p> <p><small>Comment</small> 南陽の様々な魅力を熟成させて、これから活気のあるまちをつくっていくという想いを込めました。</p> <p><small>Keyword</small> 災害に強い / 近代的 / アクティブシニア / 活気 / 主体性 / チャレンジ /ブランド / 特色 / 持続可能 / 癒し / 幸せ</p>
<p style="text-align: center;">E テーブル</p> <p style="text-align: center;">つながって元気</p> <p><small>Comment</small> 「繋がりを一番大切に、市内内外の人と強固なく交わるまちでありたい」という想いを込めました。</p> <p><small>Keyword</small> 繋がりが / 交流 / 祭り / 活気 / 安心 / 観光 / 他地域の魅力 / 活性化 / 観光 / 元気 / 笑顔 / 高齢者の知恵 / 便利 / 育成</p>	<p style="text-align: center;">F テーブル</p> <p style="text-align: center;">愛し愛され愛してる南陽♡</p> <p><small>Comment</small> 市民が地元を愛し、外の人も南陽を愛している未来が、喜ばせられる素敵な南陽市であると共有しました。</p> <p><small>Keyword</small> 助け合い / 多様性 / 夢 / 遊び / 観る / グローバル / 革新的 / 共有 / 自立 / 魅力的 / 自由 / コミュニティ / 交流</p>	<p style="text-align: center;">G テーブル</p> <p style="text-align: center;">どうかしてる…なにか起こる… くせになるまち…南陽!</p> <p><small>Comment</small> 「振り切った表現」が人が集まり、憧れるまちになっていくのではないかとこの想いを込めました。</p> <p><small>Keyword</small> 若者 / つながる / 集まる / 自由 / 遊ぶ / 楽しさ / おもしろい / 田舎 / くせになる / 観光 / PR / 発信 / 南陽唯一</p>	<p style="text-align: center;">H テーブル</p> <p style="text-align: center;">人が好き! まちが好き! Well come Nanyo</p> <p><small>Comment</small> 市民が交流できる機会や場をつくり、外国人や一度まちを出た人も歓迎しようという想いを込めました。</p> <p><small>Keyword</small> 主体性 / 市民参加 / 愛 / 自慢 / 積極性 / DIY / シンボル / 豊か / 安心 / 広域的 / 交流 / 趣味 / つながり / 充実</p>

4. 社会経済動向

(1) 人口減少・少子高齢化の進行

日本の総人口は、平成 20 年をピークに減少局面に入っており、平成 30 年には 1 億 2,644 万 3 千人と、平成 27 年から平成 30 年までにかけて 66 万人減少しました。平成 30 年の 65 歳以上の老年人口は 3,557 万 8 千人、高齢化率は 28.1%と過去最高値となっています。

また、我が国の合計特殊出生率は、平成 17 年に最低の 1.26 を記録した後上昇傾向となり、平成 27 年には 1.45 まで上昇しましたが、その後は、平成 30 年に 1.42 となるなど、微かに減少しています。

本市においては、全国的な少子高齢化、人口減少に伴い、空き家の増加や耕作放棄地の増加、山林の荒廃、教育環境の見直し、高齢者の移動手段の確保など、市民生活、経済活動における諸課題に対応していかなければなりません。

(2) 地方創生の推進

人口減少、少子高齢化は、働き手となる世代の相対的な減少という人口構造の大きな変化を意味します。人手不足が進行し、市内経済活動の低迷、税収不足など、地域社会に様々な影響を及ぼすことが懸念されます。

国においては、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持するために、令和元年 12 月に第 2 期のまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、地方創生の取組を推進しています。併せて、働き方改革の推進、外国人材の受入れの拡大など、社会構造を大きく変える施策が進められています。

本市においても南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しており、仕事、子育て、定住をテーマとした総合戦略の推進により一層取り組む必要があります。

(3) 大規模自然災害の頻発

近年、全国的に気候変動を要因とした大規模な自然災害が頻発しています。本市においても平成 23 年に東北、関東各地に大きな被害をもたらした東日本大震災をはじめ、平成 25 年、26 年には局地的に発生した集中豪雨により豪雨災害に見舞われるなど、これまでの基準では対応が難しい災害が発生しています。都市基盤における防災力の向上や地域防災体制の整備など、平時における自然災害への備えをより一層強化していく必要があります。

(4) 経済・社会のグローバル化の進展

わが国の経済は、グローバル化の進展による世界規模での競争の激化や生産拠点の海外へのシフト、国内における事業所の再編、統合などの様々な変化に直面しています。平成 30 年には「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（TPP11）」が発効、翌 31 年には日 EU 経済連携協定（EPA）が発効され、自由で公正な 21 世紀型の新たな

ルールが構築されています。これにより、製造業におけるほぼ 100%の関税撤廃や投資、電子商取引などのルール合意など、さらにグローバル化が進むものと想定されます。

本市においては、国際的な情勢の変化を捉えながら、中小企業も含めた市内企業が、国際競争の激化など厳しい事業環境に対応していくため、その強みや独自性が何かを改めて問い直し、設備投資をしやすい環境づくりにより、国際的な競争力を維持、充実させていかなければなりません。

また、農林業においては、高齢化による担い手の減少が懸念される中、低価格な野菜や肉などの輸入農作物の増加などにより経営環境の厳しさもより一層増していることから、本市農産物の国際競争力の強化や農林業と商工業などの産業間連携、農地の集積化、担い手の確保に向けた取組を進めていく必要があります。

(5) エネルギー・環境制約の高まり

現代の生活は、電気やガス、ガソリンなどのエネルギーが無ければ成り立ちません。わが国における平成 28 年エネルギー自給率は 8.3%であり、エネルギー資源の多くを輸入に頼っていることから国際情勢の影響を受けやすいという課題を抱えています。

その中でも、石油・石炭・天然ガスなどの化石燃料に大きく依存していますが、東日本大震災以降、すべての原子力発電所が停止した影響もあり、火力発電所の稼働が増え、平成 28 年度の依存度は 89%となっています。

化石燃料の使用は多くの温室効果ガスを排出します。地球温暖化対策のため、経済成長と省エネルギーの両立、再生可能エネルギーの導入など温室効果ガスの削減に取り組む必要があります。

(6) Society5.0 の促進

Society 5.0 ※₁の実現に向けた技術（以下「未来技術」という。）は、自動走行を含めた便利な移動・物流サービスやオンライン医療、IoT ※₂を活用した見守りサービスなど、自動化により人手不足を解消することができるとともに、地理的・時間的制約の克服を可能にします。

未来技術は、地域社会のあらゆる分野において、住民の生活の利便性と満足度を高める上で有効であり、地域の魅力を一層向上させることができることから、本市の抱える地域課題の解決に向けて、活用を検討していく必要があります。

※₁ 狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く新たな社会

※₂ モノがインターネットに接続され、相互に情報をやり取りすること。

(7) 持続可能な開発目標（SDGs）

持続可能な開発目標（SDGs）は、平成 27 年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された平成 28 年から令和 11 年までの国際目標で

す。全ての関係者の役割を重視し、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して、経済・社会・環境を巡る広範な課題解決に統合的に取り組むものとなっています。

本市においても、持続可能なまちづくりや地域活性化に向けて取組を推進するに当たり、SDGs の基本理念や目標を取り入れた自治体運営を推進することが必要になると考えられます。

(8) 社会保障と財政の持続可能性

地方の財政状況は、人口減少、少子高齢化に伴う税収の減少、社会保障関係費の増加により、依然として厳しい状況にあります。令和7年には、団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）になることから医療、介護費等の社会保障費が増加するものと想定されています。

また、高度経済成長期以降に整備された道路、橋梁、公共施設等の資産の老朽化が進んでおり、今後において維持管理や更新に必要な費用の増加が見込まれます。

これからの財政運営においては、「選択と集中」により費用対効果の高い投資を行うとともに、サービスの安定的、継続的な提供のために、財源の確保や公共施設の計画的な維持管理、各事業分野における不断の見直しに取り組み、持続可能で安定した財政基盤を確立しなければなりません。

さらに、広域的な行政課題に対しては県及び定住自立圏による関係自治体との連携により取組を進めていくことが求められています。

第2章 基本構想

第1節 基本理念

基本理念とは、私たちが南陽市のまちづくりを進めていく上で最も大切にしていきたい考え方です。この基本理念と基本理念に基づくコンセプトをもとに、まちづくりに取り組み、将来像の実現を目指していきます。

あらゆる世代が誇りと生きがいを持ち、安心して暮していくことができる社会を実現するため、ひと、もの、活動等のあらゆる地域資源をつないで、新たな価値を創造します。

基本理念に基づくコンセプト

- 地域を牽引する人材を育てる。
- あらゆる地域資源を活用する。
- 地域協働を推進する。
- 新たな切り口、新たな捉え方、新たな活用法を取り入れる。

第2節 将来都市像

将来都市像は、住民・地域・企業・行政が一緒にまちづくりを進めていく上で、共有できる未来の本市の姿であると言えます。この将来都市像に基づき、長期的な視点により市民協働によるまちづくりを進めていきます。

つながり つどう 縁結ぶまち 南陽

南陽市は、かつてより東北各県を結ぶ道路、鉄道が交わり、様々な人が行き交うことで多様な交流が生まれてきた土地柄です。

人と人、まちとまち、過去と未来、心と心

それぞれの想いを持つ人々が出会い、地域や時間を越えてお互いに関係性を持つ様子を

「つながり」と表現しました。

そうした「つながり」を持った人達が集まり、それぞれの想いや多様な価値観が交わることにより、新たな発想や新たなこれまでに無い可能性を生み出します

そうした人達が信頼関係を築きながら一緒に活動していく姿を

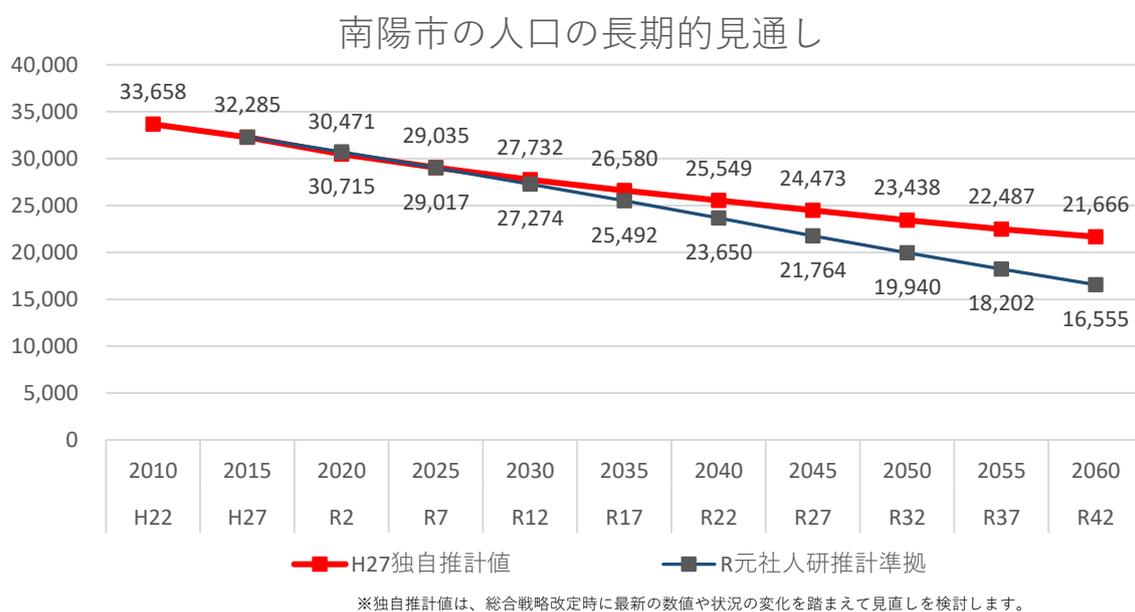
「つどう」と表現しました。

「縁結ぶまち」は、南陽市が人やまちがつながる場所となり、多様な「つながり」、「つどう」の連続が、新しいものやことを起こしていく姿を現しています。

これからの南陽市は、ここに住む人、出会う人が生き方、暮らし方を楽しみ、多様な「縁」により新たな付加価値が生み出されていくまちを目指します。

第3節 目標人口

本市の将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所推計準拠によると、2060年における本市の人口は約16,500人になることが予測されています。これに対して、平成27(2015)年度に策定した「南陽市人口ビジョン」及び「南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、人口減少に歯止めをかけ、市の活力を維持するために2060年における目標人口を21,666人としています。計画の目標年次である令和12(2030)年度末における将来人口は「南陽市人口ビジョン」及び「南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえて、27,800人を目指すものとします。



本計画における目標人口

27,800人

(令和12(2030)年度末時点)

第4節 計画の構成 (Vision)



SDGsの基本理念・基本目標に対応した計画大綱



キーワード 第2回市民WS_大切にしたいキーワード

第5節 計画大綱（基本目標）

1. 健やかで安心な暮らし・子育てを実現する

生き方、暮らし方を楽しむには、健やかで安心な暮らしが欠かせません。

市民一人一人が、人生のそれぞれのステージにおいて、健やかに安心して生活できる地域の実現に向けて、子育て支援、健康、福祉の充実に取り組みます。

①子育て支援を充実させる

家族の形態や生活スタイルの多様化に対応し、安心して子どもを産み育てることができる環境をつくります。また、地域や社会全体がつながり、子育てを支えていく体制を構築します。

②健康づくりを促進する

すべての住民が生涯にわたり健康に過ごすことができるよう、市民の健康管理や心身の健康増進を図ります。

③保健・医療を充実させる

だれもが十分な医療を受けられるよう、公立置賜総合病院や公立置賜南陽病院を核とし、保健、医療体制の充実を図ります。

④障がい(児)者支援を充実させる

様々な心身の特性や考え方をもつ全ての人々が、相互に理解を深め支え合い、自分らしく暮らし続けることができるよう支援を行います。

⑤高齢者支援を充実させる

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、介護予防による健康寿命の延伸と社会参加の促進、生活支援の充実を図ります。

2. 地域に根ざした人材を育てる

学びは未来への投資となります。

子どもからお年寄りまで、市民一人一人が主体的な学びと交流を行うことにより、地域の中で新たな付加価値や地域文化を生み出していく人材として成長していけるよう、教育、文化、スポーツの充実を図ります。

①質の高い学びをつくる

グローバル化や情報化、少子化が進展する社会の中で、一人一人の主体的な学びにより、自らの可能性を最大限に発揮し、たくましく生きぬく力を育みます。また、地域、学校、家庭が連携し、人や地域とつながりのある実践的な学びの場を形成します。

②ふるさとの文化を伝える

南陽市の豊かな自然、風土が育んだ食、歴史、伝統、文化財など、過去から未来へとつないできたふるさとの文化資源を一人一人が学び、継承し、活用する機会を創出します。

③スポーツ交流を推進する

スポーツを通じて得られる楽しさや喜びには、地域や世代、性別を超えた交流を生み出す力があります。一人一人がスポーツに親しむ場をつくり、人と人との縁を拓けます。

④文化芸術を育てる

文化芸術は、人々に感動や生きる喜びをもたらして人生を豊かにするものであり、豊かな人間性を育み、社会全体を活性化する上で大きな力となります。一人一人が、主体的に文化芸術に触れる機会の創出と地域の文化芸術の創造を促進します。

⑤生涯学習を充実させる

市民一人一人が、創造性を育み、それぞれのライフステージに応じて暮らし方や生き方を考え、また、多様性の増す社会の中で主体的に地域課題の解決に取り組むための基礎となる学びを支援します。

3. 力強い産業の基盤をつくる

産業の成長は人を呼び込む原動力となります。

高速交通網のさらなる充実を絶好の好機と捉え、市の強みである製造業、農業等の特色ある産業の育成、発展と地域資源の磨き上げを進めることにより、力強い産業の基盤をつくり、地域経済の活性化及び雇用の創出を促進します。

①産業の付加価値を高める

各種団体と連携しながら、地域資源のブランディングや地域産業のニーズを的確に捉えた育成、支援を行うことにより産業の付加価値を高めていきます。また、起業、創業支援等により、地域経済の活性化及び雇用の創出を図っていきます。

②後継者を育てる

生産年齢人口の減少に伴い、農業、自営業を中心に深刻な後継者不足、担い手不足が懸念されるため、産業の集積化等により産業の魅力を高めるとともに、後継者となる人材の掘り起こし及び育成を図ります。

③先端技術を活用する

各種産業における人手不足や地理的、時間的制約等の諸課題に対して、先端技術の活用を検討します。

④産業間連携を進める

地域や産業の枠を超えた産業間連携をつくることにより、「もの」や「こと」の創造を促進し、付加価値を高めます。

4. 強くてしなやかなまち・住みよいまちをつくる

住む人の命と財産を守ります。

災害から市民の生命と財産を守るため、地域防災体制の充実を図るとともに、防犯・交通安全意識の向上に努めます。また、安心して生活できる住みよいまちを目指して、交通・生活インフラの整備による利便性向上を図ります。

①災害に強いまちをつくる

豪雨災害をはじめとする様々な災害リスクに備え、市民の防災意識の向上と地域防災体制の充実を図ります。安全な市民生活を確保するため、除排雪対策の充実を図ります。

②公共交通をつなげる

市民の暮らしに必要な医療、福祉、買い物等への移動手段を確保するため、公共交通ネットワークの効率化や再編、整備を進めます。

③交通インフラを整備する

都市間の経済交流、物流を支える高速道路、鉄道などの高速交通ネットワークについて周辺自治体や関係機関と一体となって整備を促進します。また、市民生活に直結する幹線道路、生活道路についても計画的な整備、維持管理を行います。

④快適な居住環境をつくる

自然と都市が調和するコンパクトなまちづくりにより快適な居住環境づくりを進めます。さらに、近年増加傾向にある空き家等について、適切な対策を講じます。

⑤生活インフラを整備する

上下水道の適切な維持・管理に努めながら、経営の広域化等を検討し、将来にわたり安全で強靱、持続可能な事業運営を目指すことで、安定した水の供給と処理に努めます。

⑥防犯・交通安全を推進する

安心、安全な生活環境を守るため、防犯意識、交通安全意識の向上や地域の実情に即した安全対策に取り組みます。

5. 自然の豊かさを守る

山や川、豊かな自然を未来につなぎます。

自然環境や地域の資源を有効に活用し、自然環境の保全と資源リサイクル、省エネルギーを推進します。

①自然環境を守る

市域の約6割の面積を占める森林の適切な管理、育成を行い、森に暮らす生物の多様性を守ります。また、森や川等の自然環境を学ぶ体験学習や保全活動を推進します。

②資源リサイクルを進める

環境と経済が両立した循環型社会を形成するため、リデュース（減らす）、リユース（繰り返し使う）、リサイクル（再資源化する）による限られた資源の有効活用を推進します。

③省エネルギーを進める

省エネルギーや再生可能エネルギーの導入を進めることにより、環境負荷の少ない長期的に安定した持続可能なエネルギーの需給を推進します。

6. 人がつながりまちを育てる

多様な縁により、新しいものやことを起こします。

人と人が、地域や時間を越えてつながる場をつくり、新しいことやものを起こす人材を増やします。安定した行財政運営により、市民の自発的な活動を支えます。

①市民がつながる場をつくる

市民が、地域や年代を超えて、多様なつながりをつくり、思考の変化、行動の変化を生み出す「場」づくりを進めます。

②まちづくりへの市民参画を進める

市民協働の実現に向けて、まちづくりへの市民参画の推進と、住民と行政の対話の充実を図ります。

③男女共同参画を推進する

女性の職業生活における活躍を推進し、豊かで活力ある社会の実現を図るとともに、男女共同参画に関する学習機会の確保や啓発活動の推進により、男女共同参画意識の向上に努めます。

④行政サービスを充実する

多様化する住民ニーズに対応するため、適切な評価・検証に基づく効率的な行政運営を推進します。

⑤健全な財政運営を行う

持続可能な財政を運営するために、財源の確保と行政改革を進めます。また、中長期的な財政見通しによる計画的で健全な財政運営を推進します。

⑥広域行政を進める

単独自治体では解決困難な行政課題について、県や置賜定住自立圏関係自治体との連携により効率的に課題解決を図ります。

7. 発信力のあるまちづくりを進める

全ての取組は、人から人へと情報を伝えていくことから始まります。

本市の特色ある人やもの、ことの情報を伝えるべき相手にしっかりと伝え、グローバル化に対応した取組、情報発信、観光資源の活用を推進していきます。

①グローバル化に対応する

本市の強みである農産品、製品、加工品などのブランディングを進め、国内外への販路を開拓することにより、域外から所得を稼ぐ産業として育成を図ります。また、外国人観光客をターゲットとしたハード、ソフト両面の受入体制を整備し、インバウンド観光を推進します。

②情報発信を充実する

各分野のまちづくりについて、情報やサービスを真に必要としている相手に届けるため、情報収集やマーケティングを行うとともに、ターゲット層、時期、手法を定めて、デザイン性が高く分かりやすい情報を発信していきます。

③観光資源をつなげる

意欲の高い農業経営者、商店・飲食店経営者、宿泊施設経営者などがつながりを持つことにより、ここでしかできない体験や魅力ある観光資源を結び、広域連携 DMO や体験型観光、周遊型、滞在型観光の充実を図ります。

第5次総合計画と第6次総合計画の対応表

第5次総合計画大綱			第6次総合計画大綱	
基本目標	基本施策1	基本施策2	基本施策	基本目標
1 教育 のまちづくり	1) 国際的な視野を持つたくましい人づくり	1 多文化共生の視点に立った国際理解教育の推進	①質の高い学びをつくる	2 地域に根ざした人材を育てる
		2 心豊かな児童・生徒の育成	①質の高い学びをつくる	2 地域に根ざした人材を育てる
		3 創造性に富んだ人材育成	①質の高い学びをつくる	2 地域に根ざした人材を育てる
		4 小・中学校等の教育環境の整備	①質の高い学びをつくる	2 地域に根ざした人材を育てる
	2) 生涯にわたり人を思いやる徳育の向上	5 啓発的体験活動の推進	①質の高い学びをつくる	2 地域に根ざした人材を育てる
		6 「知・徳・体」教育の実践	①質の高い学びをつくる	2 地域に根ざした人材を育てる
	3) スポーツ交流の推進	7 スポーツ環境の充実	③スポーツ交流を推進する	2 地域に根ざした人材を育てる
		8 競技スポーツの振興	③スポーツ交流を推進する	2 地域に根ざした人材を育てる
		9 生涯健康スポーツの推進	③スポーツ交流を推進する	2 地域に根ざした人材を育てる
	4) ふるさと教育の推進	10 地域PRの推進	②情報発信を充実する	7 発信力のあるまちづくりを進める
		11 郷土愛を深める文化の継承発展	②ふるさとの文化を伝える	2 地域に根ざした人材を育てる
		12 食農・食育の充実	②ふるさとの文化を伝える	2 地域に根ざした人材を育てる
		13 市民活動機会の充実	①市民がつながる場をつくる	6 市民がつながりまちを育てる
		14 生涯学習による人づくり	⑤生涯学習を充実させる	2 地域に根ざした人材を育てる
	5) 地域を活性化する実践的なまちづくり	15 まちづくり参画の推進	②まちづくりへの市民参画を進める	6 市民がつながりまちを育てる
		16 若者の交流推進	①市民がつながる場をつくる	6 市民がつながりまちを育てる
		17 家庭教育の推進	②ふるさとの文化を伝える	2 地域に根ざした人材を育てる
		18 コミュニティの再生	①市民がつながる場をつくる	6 市民がつながりまちを育てる
		19 男女共同参画によるまちづくりの推進	③男女共同参画を推進する	6 市民がつながりまちを育てる

		20 地域文化の発信と文化交流の推進	②情報発信を充実する	7 発信力のあるまちづくりを進める
2 産業 のまちづくり	1) 地域資源を活かした新たな産業のブランド化	21 地域資源を活かした産業の活性化	③観光資源をつなげる	7 発信力のあるまちづくりを進める
		22 南陽ブランドの構築	③観光資源をつなげる	7 発信力のあるまちづくりを進める
		23 地域商品の情報発信による販路の拡大	②情報発信を充実する	7 発信力のあるまちづくりを進める
	2) 意欲ある後継者の育成と雇用の確保	24 農・商・工・観光の後継者の育成・支援	②後継者を育てる	3 力強い産業の基盤をつくる
		25 雇用機会の創出	①産業の付加価値を高める	3 力強い産業の基盤をつくる
	3) 観光資源のネットワーク化	26 地域観光資源のネットワーク化	③観光資源をつなげる	7 発信力のあるまちづくりを進める
		27 体験・滞在型観光の促進	③観光資源をつなげる	7 発信力のあるまちづくりを進める
		28 新たな視点による観光資源の活用	③観光資源をつなげる	7 発信力のあるまちづくりを進める
		29 温泉巡りを楽しめるまちづくり	③観光資源をつなげる	7 発信力のあるまちづくりを進める
	4) 中心市街地の商業活性化	30 商店街活性化の支援	①産業の付加価値を高める	3 力強い産業の基盤をつくる
		31 生産・販売体制の強化	①産業の付加価値を高める	3 力強い産業の基盤をつくる
	5) ものづくりの開発力強化と情報発信	32 最先端の技術移転の促進	③先端技術を活用する	3 力強い産業の基盤をつくる
		33 都市間交流によるものづくり情報の相互発信	④産業間連携を進める	3 力強い産業の基盤をつくる
	6) 付加価値の高い産業開発	34 環境に配慮した産業団地計画の推進	①産業の付加価値を高める	3 力強い産業の基盤をつくる
		35 既存企業の活性化支援	①産業の付加価値を高める	3 力強い産業の基盤をつくる
7) 環境にやさしい循環型社会	36 環境意識の高い地域づくり	③省エネルギーを進める	5 自然の豊かさを守る	
	37 資源リサイクルの推進	②資源リサイクルを進める	5 自然の豊かさを守る	
	38 自然環境の保全・育成	①自然環境を守る	5 自然の豊かさを守る	
3 健康 のまちづくり	1) 明るく元気な子を育む地域づくり	39 子育て支援サービスの充実	①子育て支援を充実させる	1 健やかで安心な暮らし・子育てを実現する
		40 産み育てやすい環境	①子育て支援を充実させる	1 健やかで安心な暮らし

り	境づくりの推進	せる	し・子育てを実現する
	41 子育てを応援する 居住環境の充実	①子育て支援を充実さ せる	1 健やかで安心な暮ら し・子育てを実現する
	42 安心を担う保健・医 療サービスの充実	③保健・医療を充実させ る	1 健やかで安心な暮ら し・子育てを実現する
2) 温泉を活 かした健康 増進プログ ラム	43 温泉による健康保 養基地	②健康づくりを促進す る	1 健やかで安心な暮ら し・子育てを実現する
	44 健康増進の場と情 報の提供	②健康づくりを促進す る	1 健やかで安心な暮ら し・子育てを実現する
3) 健康体力 づくり都市 宣言の発展 化	45 こころとからだの 健康づくりの促進	②健康づくりを促進す る	1 健やかで安心な暮ら し・子育てを実現する
	46 公民館を拠点とし た健康活動の支援	②健康づくりを促進す る	1 健やかで安心な暮ら し・子育てを実現する
4) 地域コミ ュニティに よる健康サ ポート	47 地域福祉ネットワ ークの形成	⑤高齢者支援を充実さ せる	1 健やかで安心な暮ら し・子育てを実現する
	48 世代間交流による 高齢者の健康づくり	⑤高齢者支援を充実さ せる	1 健やかで安心な暮ら し・子育てを実現する
	49 障がい者の社会参 加の促進	④障がい(児)者支援を 充実させる	1 健やかで安心な暮ら し・子育てを実現する
5) 定住を進 める社会基 盤の整備	50 自然と活力が調和 した土地利用の推進	④快適な居住環境をつ くる	4 強くてしなやかなま ち・住みよいまちをつ くる
	51 ふるさと景観の形 成	④快適な居住環境をつ くる	4 強くてしなやかなま ち・住みよいまちをつ くる
	52 道路網の整備	③交通インフラを整備 する	4 強くてしなやかなま ち・住みよいまちをつ くる
	53 地域公共交通の確 保	②公共交通をつなげる	4 強くてしなやかなま ち・住みよいまちをつ くる
	54 上下水道の整備促 進	⑤生活インフラを整備 する	4 強くてしなやかなま ち・住みよいまちをつ くる
	55 河川・砂防事業の促 進	①災害に強いまちをつ くる	4 強くてしなやかなま ち・住みよいまちをつ くる
6) 安心して 生活しやす い環境づく り	56 自然災害に備えた 地域防災体制の充実	①災害に強いまちをつ くる	4 強くてしなやかなま ち・住みよいまちをつ くる
	57 交通安全と犯罪防	⑥防犯・交通安全を推進	4 強くてしなやかなま

		止の推進	する	ち・住みよいまちをつくる
		58 雨・雪に強い地域づくり	①災害に強いまちをつくる	4 強くてしなやかなまち・住みよいまちをつくる
		59 社会保障の的確な運用	④行政サービスを充実する	6 人がつながりまちを育てる
		60 安全・安心な住環境の整備	④快適な居住環境をつくる	4 強くてしなやかなまち・住みよいまちをつくる
4 計画を推進するための取り組み	1) 効率的な行政財政運営	61 地域特性を活かした政策形成	④行政サービスを充実する	6 人がつながりまちを育てる
		62 行政情報化の推進	②情報発信を充実する	7 発信力のあるまちづくりを進める
		63 広域行政による効率化の推進	⑥広域行政を進める	6 人がつながりまちを育てる
		64 長期的な視点に立った財政運営	⑤健全な財政運営を行う	6 人がつながりまちを育てる
	2) 市民に開かれた市政の推進	65 行政施策の決定プロセスの公開	④行政サービスを充実する	6 人がつながりまちを育てる
		66 市民参画に向けた広報広聴活動	②まちづくりへの市民参画を進める	6 人がつながりまちを育てる